

結核は地球規模課題で日本の得意分野

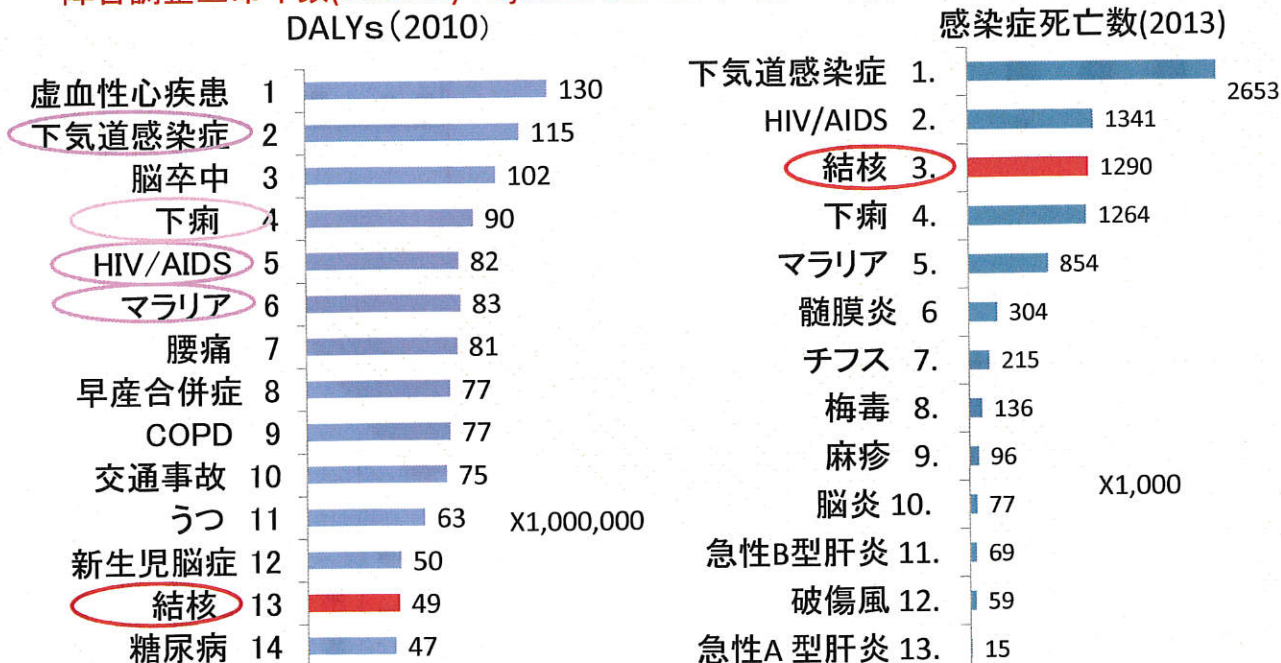
- 結核は世界の健康脅威(特に多剤耐性結核)
- 世界の結核対策なしに日本の結核は無くならない
- 結核対策は保健システムの内容を充実させ、UHCに貢献
 - 技術協力の重要性
 - 適切な技術の拡大
 - 50年以上の二国間協力による技術協力の経験
 - 国際研修で、53年に亘り世界的人材の育成をしてきた(1963年~2015年で、97か国、2280人。国際人材のネットワーク)
 - 日本の医療・技術・サービスの国際展開
 - 新抗結核薬(デラマノ)、診断技術(Lump法・LiPA・X線検査)等
 - 今後のさらなる技術開発が期待される
 - 日本型予防・発見・治療のシステムが移転できる

1

結核はいまだに世界の主要健康負荷

感染症全体で900万人が死亡、結核は減少傾向だが、感染症死因で3位、単一病原性疾患で2位、全疾患DALYsで13位

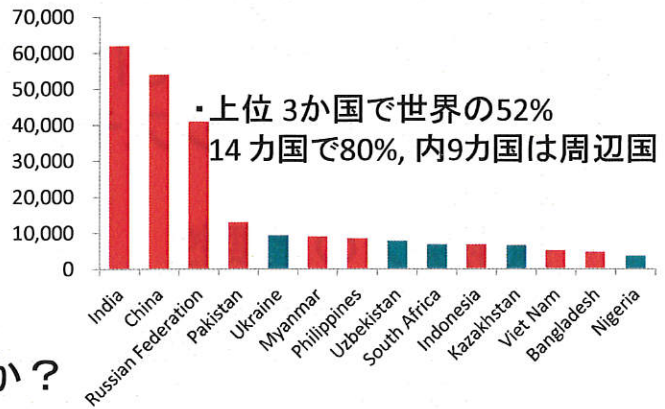
障害調整生命年数(Disability-Adjusted Life Year) = 死亡と障害により失われた年数



多剤耐性結核の流行,2013

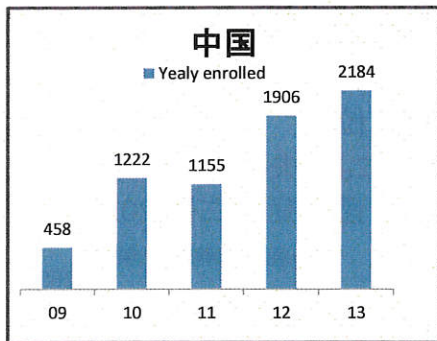
アジア周辺国からの脅威

世界の新発生結核患者で
48万人が
多剤耐性結核

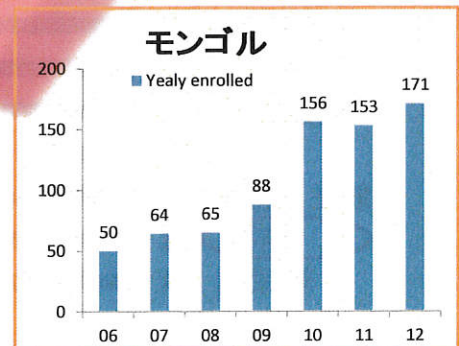
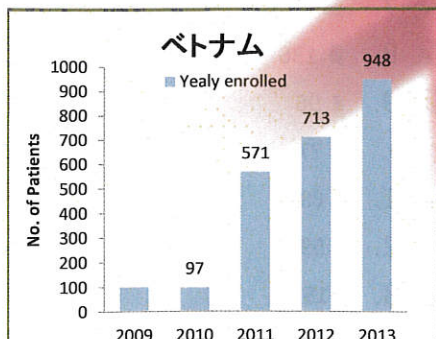
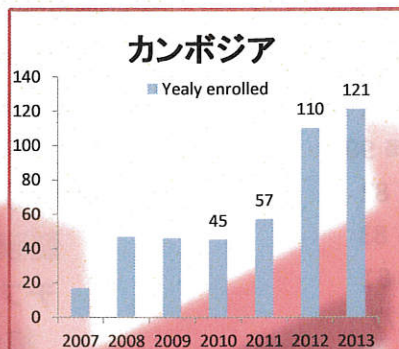
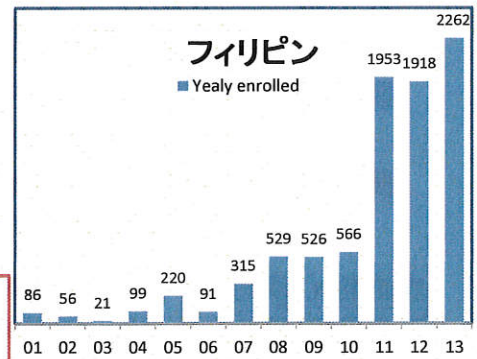


- 何故多剤耐性が問題か？
 - 不適切な対策によって起こる
 - 治療が非常に困難(死に至る可能性が高い)
 - 治療費が非常に高い(2000万~5千万円?)
 - 空気感染で人にうつし、うつされる可能性がある

WHO Global Tuberculosis Report, 2014

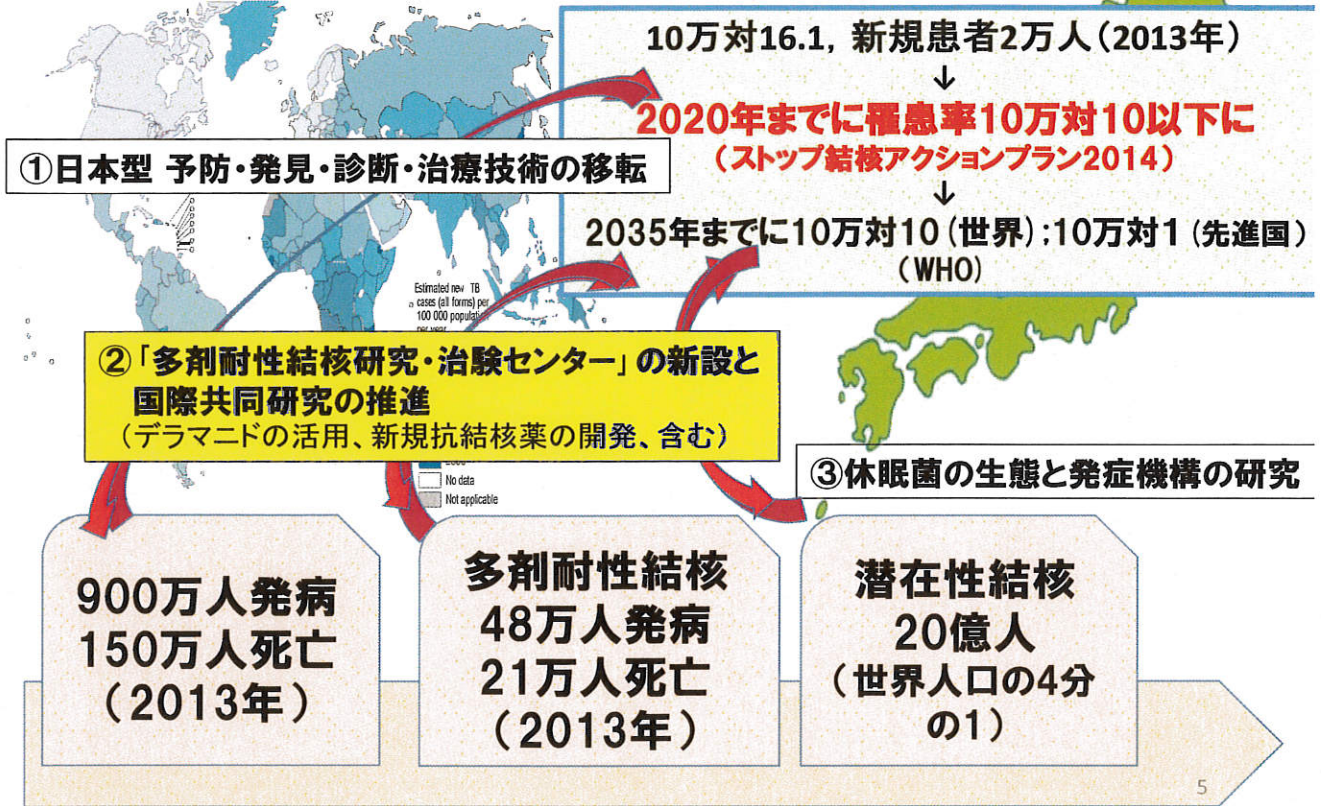


アジア諸国で
多剤耐性患者は
年々増えている



世界の結核と日本の結核は不可分

Estimated TB incidence rates, 2012



International Training Courses, 97 Countries, Alumni Network of 2,280 Professionals

(Including 297 participants of AIDS course from 19 countries)

